

懇話会議事要旨

- 1 名 称 第2回南芦屋浜地区まちづくり懇話会
- 2 日 時 令和4年1月18日(火) 9時30分～11時30分
- 3 場 所 芦屋市総合公園 会議室
- 4 出席者
自治会 自治会組織5団体6名
有識者 川口会長(大阪産業大学 准教授)、佐久間副会長(和歌山大学 准教授)
兵庫県 森安委員(阪神南県民センター 副センター長)、
濱本委員代理(企業庁 分譲企画班長)
芦屋市 西田委員(技監)、辻委員(都市建設部長)
都市計画課 課長 柴田、主幹 長良、係長 岡本、係長 小栗

5 話し合われた主な内容

第1回懇話会のふりかえり

懇話会は、まちづくりの推進を目的に、当面は、未利用地の利用についての意見交換をすることとし、現況や、まちづくりの計画について説明、意見交換した。

第1回懇話会や会終了後のアンケート結果で出されたまちづくりについての意見を説明

- ・災害時の避難や避難場所などの防災や、道路交通状況の改善などの交通安全、騒音といった「安全安心」に関すること
 - ・地域コミュニティなど集える場の必要性など、「コミュニティの充実」に関すること
 - ・暮らしやすさに関するクリニックや飲食店など「生活利便施設」に関すること
 - ・人の流れや日中の活動拠点など、「まちの活性化」に関すること
 - ・防災対策が図られていること、ベイエリアとしての環境価値など、「まちの魅力発信」に関すること
- 以上の視点毎に望むことや課題と思う意見や、現状について整理したものを説明した。

将来のまちについての意見交換について

10年、20年後の地区の将来を考えたときにどうあってほしいのか、その将来を目指して何をしていくことがよいと考えられるか、説明した視点毎に意見交換を行った。意見の概要は以下のとおり。

安全安心について

- ・南海トラフ地震などによる津波災害時に、高層住宅への避難は、何名ぐらいを想定していて、十分なのか。
- ・南海トラフ地震による津波は、どれぐらいの時間で到達する見込みか。
- ・南芦屋浜下水処理場への避難は何名ぐらいを想定しているか。
- ・国道43号以北に逃げる時の誘導體制は整っているのか。歩いて避難できるのは健康な人であって、子どもや高齢者、障がいがある人、ペットがいる家庭も多く、半数は徒歩での避難が無理ではないか。車での避難を想定すべきではないか。
- ・避難訓練などは行われているのか。
- ・過去にはフリーゾーンで防災訓練をしていて、避難のイメージができていたが、会員制ホテルが出来て訓練できなくなり、そのイメージが途切れてしまった。ホテルとも話し合いや連携が取れていないのでは。

- ・国道 43 号以北に車で避難する人が多いと思うが、避難時のイメージづくりをするべきではないか。

市の発言

- ・高層住宅への一時避難は、約 4,600 人、南芦屋浜下水処理場は、約 200 人の収容が可能であり、避難者は戸建てにお住まいの約 2,700 人が中心になり、収容可能人数で足りていると考えている。
- ・津波は約 2 時間で到達する見込みである。
- ・総合公園も避難所として指定されているが、水害の際は、まずは、高い場所に避難してほしい。
- ・避難訓練は、市は全市的な訓練を行っているが、地域単位の訓練も地域で実施していただきたい。
- ・徒歩での避難を基本としている。高潮による災害など、ある程度避難誘導の体制整備ができるかもしれないが、夜中や大きな地震時には、誘導員の配置が難しい。また、停電により信号も点いていない可能性もあり、避難者自身で、気を付けていただいたり、日ごろからどうするのかを地域やご家庭で考えていただきたい。
- ・いただいたご意見については、担当部署に伝達する。

コミュニティの充実について

- ・親水公園ファン倶楽部は、ペットボトルツリーや灯籠流しなどを実施している。鴨の小屋を作ることもあった。実施して 8 年になるが、きっかけは、子どもたちが近所で遊ぶことが少なかったため、自治会を超えて子供たちを中心に交流を図ろうとはじめたこと。
- ・ペットボトルツリーは当日には 500 人ほど集まる。過去にはポップコーンを出したこともあったが、コロナ禍で人が集まるのが難しくなりイベントを縮小している。
- ・親水西公園の倉庫は海岸通自治会と協働で活用し、ペットボトルツリーはその倉庫で保管している。たまに子どもたちが手伝いに来てくれるが人手が足りていないので負担が大きい。
- ・大きなイベントをするには人手が不足している。前もって情報発信がうまくできればもっと人が集まると思う。いままでは勢いで活動をしてきたが、活動を継続していくためにどういう発信をしていけばいいのか悩んでいる。
- ・地域のイベント開催を公共スペースで行うには、防災訓練など、公共的な事業と組み合わせる必要があるため、人材とお金が必要になる。公共スペースでもっと自由にイベントを実施できるようになるとやり易い。
- ・親水公園のイベントと同時に、県営住宅ではクリスマスコンサートすると聞いたが、詳細がわからずじまだった。地域の横のつながりが不十分で、情報が行き渡っていないと思われる。このような情報を掲示し、人のつながりを生むような仕組みや施設などがあれば、地域はもっと盛り上がる。
- ・防災訓練と合わせて何かイベントをしたいと思っている。
- ・今の子どもは塾などで時間に余裕がなく、地域活動に参加できないのが現状である。また、親も忙しい。火の用心やゴミ出しなどの活動を続けている。大変なイベントをするからこそコミュニティが強くなることも考えられるが、負担が少ないから続けられることもある。お金をかけない工夫や、色んなイベントを実施できる仕組みが必要。
- ・地域の活性化は大切だと思うが、時間とマンパワーには限界がある。特にお金はそうだが、地域活性化を行政が担ってほしい。
- ・潮芦屋に住めば、安心して子どもを心豊かに育てられると思ってもらいたい。

市の発言

- ・自治会役員だけでイベントを継続していくことに限界があることは承知している。
- ・宮塚公園を改修した際に、地域の人が公園を活用しやすくした。月に1回イベントができればと思っている。ワインを楽しむ夕べなど、大人も楽しめるイベントもよいかと思う。
- ・コミュニティづくり地域の見守りに、高校生や大学生に入ってもらっただけでも良い刺激になると思う。学生側も勉強になったりと、お互いに有益な取組となる。
- ・防災訓練だけでは防災意識の高い人しか参加しないので、おもちゃ交換会など、防災訓練と合わせて実施しているところもある。

生活利便施設・まちの活性化について

- ・地元を展開している店舗（マルハチ・コーナンなど）と地域が連携できていない。意見交換できる場がほしい。カインズはカルチャースクールなどを開催したり地域に溶け込む活動をしている。
- ・広域の商圈で展開する店舗も有りがたいが、もう少し地域目線で営業してくれる店舗も必要である。
- ・世代を超えて、みんなが自由に、継続的に集まることができ、人のつながりを促進できるようなスペースを設けてほしい。
- ・今のセンターゾーンは、買い物だけして帰る場所になっている。買い物してから、少し休憩できるスペース、情報交換する場になるといい。
- ・センターゾーンの駐車場内も危険で、気持ち的にもゆっくりする余裕がない。施設内や周辺の信号のない交差点など、車両による事故や渋滞、また事故に至らなくても危険な思いをすることが多々ある。子どもや歩けない人、すべての人が安心して集まれるようにしてほしい。
- ・ミズノスポーツプラザ潮芦屋の夜間の騒音が気になる。住宅地と近接していることを考慮した施設を検討すべきである。
- ・ミズノスポーツプラザ潮芦屋のところに、芸術文化ホールを建設し、音楽や演劇など、若手育成の場としてはどうか。また、カフェや宿泊施設を併設するなど複合施設にすればおもしろい。若手は、活躍の場を求めている。そうした場になれば、若手が成長して活躍するようになったときにも、この地区に良いイメージを持って活動してもらえるのではないか。
- ・芸術文化ホールは、障がいのある人の働く場にもなるなど、福祉との融合ができるとうい。
- ・図書館については、ネット予約で受け取りができる施設などあればよい。
- ・神戸市には国際エメックスセンターがあり、閉鎖性海域の環境保全のため、調査研究などを行っている。南芦屋浜に閉鎖性海域の1つである瀬戸内海の生物の水族館などがあっても面白い。

市の発言

- ・ホテルやコーナンなどとは、災害時の協力について協議している。
- ・最近では、全国的に車中心から歩行者中心の社会へと変わりつつある。歩行者の安全は、当然考える必要がある。
- ・行政がハコを作る時代ではなくなった。今は民間の力を借りながら取り組んでいくことが大切。ミズノスポーツプラザ潮芦屋の今後の跡地利用などいただいたご意見については、所管部署に伝達する。

全体を通して有識者の意見

- これからの人を育てることなど、クリエイティブな意見が多かった。将来のまちについての概ねの方向性が示されたのではないか。将来を見据えたイメージをみんなが持っているのは素晴らしいことで、そのイメージを共有しつつ、人を育て、新たなモノを生み出す、まちづくりをしていくことができればよい。
- 企業は本来の事業活動と社会貢献活動を以前は、分けて考えることが多かったが、一体で考えるようになってきた。集える場に来た人がついでに買い物をして帰ることも考えられる。
- 富山ではまちなかひろば（屋外）で月に一度ワインを飲む会を開催し、地域の主要な人が集まることから、交流の場となっている。そのような大人も楽しめるコミュニティ作りは必要かもしれない。
- 南芦屋浜の人口構成は10代と50代がピークとなっている。20年後は10代の子供の大半は外部に出て、今の50代は高齢者となる。ニュータウンに起こりがちな世代の偏りが起こりうる。どのようにまちを更新していくのかは課題で、千葉県佐倉市のユーカーが丘では、年代の偏りがなくなるよう定期的な開発をしている事例もあり、そうした考え方も必要ではないか。
- この地区で育った人に帰ってきてもらえる、大人も楽しめるクリエイティブなまちづくりができればいいのではないか。
- 地区の防災計画は、行政に任せきることは難しいので地域と行政とで考えていくのがよい。また、防災に関する取組だけではなかなか人は集まらないので、防災訓練と炊き出しなど楽しみとセットにすることで、多くの人に参加して一緒になって議論できるのではないか。
- クリエイトすることには様々な人が携わる。様々な分野の方が地域にもおられるなら、その人材をうまく発掘できると良いのではないか。
- 大人も楽しめることは大切で、多様な人が多様な住まい方ができるような環境を作ること。海の近くで新たなことに取り組みたい人が集まるまちにしてはどうか。
- 今何が重要かという視点もあるが、10、20年後に大人になった次の世代は、何が必要になるのかという視点で考えることが大切。